

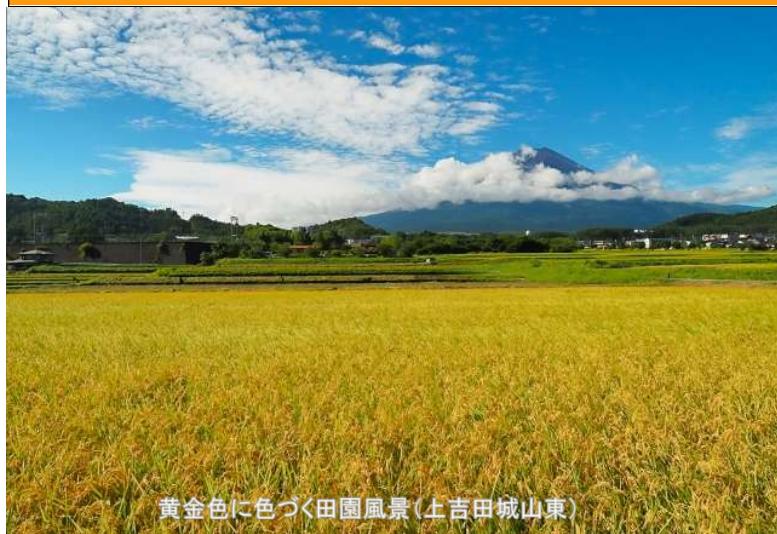
ぼちぼち

NPO 富士北麓まちづくりネットワーク会報



《第88号》

発行：NPO富士北麓まちづくり
ネットワーク
発行日：2025年10月1日
責任者：代表理事 飯田勇夫
住所：〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田東3-1-77
制作：広報専外部会
事務局電話&FAX：0555-23-0202
<http://www.mfi.or.jp/machizukuri/index.html>



黃金色に色づく田園風景(牛吉田城山東)

近年、日本社会における外国人の存在感はますます高まりつつある。年末の在留外国人は出入国在留管理局の発表によると約377万人、増える背景には人手不足で労働者の受け入れ拡大を図る政府の方針があるようだ。

彼らは労働現場や地域社会

の重要な一員であるにもかかわらず「共生」という観点からみると騒音や運転、ゴミ出しマナーに対する苦情やトラブルが数多く発生し自治体も対応策に苦慮している。

同時に日本を訪れる観光客も年々増加し、昨年は3686万人、今年は確実に400

0万人を超えると予測される。多くの観光地が活況を呈しており、一方で地域住民や観光業界が直面する課題も顕在化。特に京都など一部の地域に集中するオーバーツーリズム（過剰観光）により公共交通機関やインフラが過度に利用され地域住民の生活環境に支障をきたしている。

江戸時代、寺子屋で用いられた「教訓書」に、数多くの諺が生きていくための必要事項として記載されている。どうやら起源は4世紀ミラノの宣教師がアフリカ人に「ローマにいるときはローマ人のように振る舞え」にあるようだ。中国には「入其俗従其令」(にゅうそのぞく・そのれい)にしたがえ「その場所に行ったらその風俗や決め事に従え」という言葉がある。いずれも価値観や人間関係における柔軟性を表しており、異なる文化や環境において自己主張するばかりでなくその地域や風習を大切にする姿勢が求められることを示している。

一郷に入つては郷に従え

大ピンチに立たされている
自民党が、参院選の総括の中で
「解党的出直し」をするとした
が、「的（てき）」は「して」の
誤字ではないかと思つた。つま
り「解党して出直し」ならば、
自民党支持者は勿論、一番多い
支持政党なし層も、野党支持層
の一部までもが「大歓迎」する
だろう。今年、古希を迎えた「不
治の病」に罹つてしまつた自民
党が元気になるにはこの方法
しかない。そして一番の政策は
「裏金・疑惑献金など訳アリ政
治資金からの脱却」に尽きる。

しかし、すべての外国人がこの諺を理解し実行できれば問題はないが、これらを一様に外国人に求めて無理がある。



新倉山浅間公園を訪れる外国人



縄文人

渡来系弥生人

「日本人は単一民族?」

日本人のルーツを探る
と3000年前までに日本列島に住んでいた「縄文

共生を前提とした仕組みづくりに取り組むべきで、具体的には日本語教育、宗教、文化に配慮した公共サービスの提供が求められる。また、日本人側の意識改革も不可欠である。なる価値観や生活様式を理解し、受け入れる姿勢が広がることで初めて本当の意味での共生が可能と考える。

て頂きたいものである。



3000年前の先人たちは、どのようにして共生した

人」は、東南アジアやシベリアの遺伝子を持ち、狩猟生活を営み、土器文化を持つ日本人の基層といわれた。「弥生人」は朝鮮半島や中国大陸から渡来し、稻作や金属文化を持ち込み農耕社会を形成。その弥生人が縄文人と混血する中で現在の日本人の先祖についていく事が遺伝子分析で証明され「日本人は単一民族でなく複数の遺伝子要素が融合してできました」と位置付けられる。



**富士吉田市立青少年センター
赤い屋根だより**

No.60

電話 & FAX: 0555-23-7252
Eメール: akaiyane@mfi.or.jp
ホームページ: <http://www.mfi.or.jp/akaiyane/>
青少年センター赤い屋根 センター長 斎藤容子

この夏は昨年以上に梅雨が短く、毎日のように熱中症のニュースが報じられるほど暑くて大変な夏となり、一台しかエアコンの無いわが施設は苦しい状況でした。

【自主事業の報告】

- * みんなの食堂+子ども食堂 (7/18 子ども太極拳、8/22 子どもお茶会と花火、9/19 工作あそび)
- * 富士山ジュニアカレッジ 「子ども茶道」 7/5 7/12 8/22
8/16 明見湖祭りにて「子ども茶道体験」 150 名体験
- * 中央社会学級 「やさしい茶道」
7/4 7/18 8/29 9/5 9/19 9/26
- * ソフト粘土教室 「お月見ウサギを作ろう！」
8名参加

【今後の自主事業】

- 10/4 (土) ほのぼのロビーコンサート+中央社会学級「発表茶会」 10:00~12:00
「しらいみちよコンサート」美しい歌声とお菓子とお抹茶をお楽しみ下さい！（入場無料）
- 11/24 (月) 「富士吉田市多文化共生フェスタ」
協力参加 10:30~
市民会館小ホール他 ステージパフォーマンス ワークショップブース 飲食ブースあり



【継続の自主事業】

- * テディベア (バドミントン) 毎週火・金曜日 13:00~16:00
- * あしひどうし (沖縄三線サークル) 月2回 水曜日 10:00~11:30
- * オルケスタ若草 (音楽サークル) 月2回 水曜日 13:00~15:00



「八朔祭り、行ってきました」=その報告です

会員 篠原 信

秋意を知れば八朔祭りが気にかかり、口にまで出すわりには生来の怠け癖から一度たりとも出掛けたことなどなかった。ところが何を思ったか、今年ばかりはそれでは気が済まなくなってしまった。

いざ、その気になってみれば、なによりも九月一日が当日とばかり思い込んでいたものの知らぬ間の六日、七日の様変わり。それを告げる人いて、待てよ、旧暦で云うところの葉月朔、つまり九月一日こそ本日ではなかったかと訊き直してみれば、それは昔日のこととの返事。口説の付けが回ったかと思わず苦笑うのも恥しい。そうなれば思い違いは棚に上げ、却って意地でも行かねばならず、愈々盛り上がった心持を胸に秘め、普段なら逃げ惑う日盛りの中出掛けることとなった。

祭りの何に触れるにも、ひたすらその神様ばかりが気に掛かる。思うことは何処の神社の祭りなのか、恐れ多くもご祭神は何方様かとただそればかり。祭りとは五穀豊穣にしろ、天下泰平にしろいざれ神を畏れる気持ちがあればこそのはず。八朔祭りのそんな想いとはどこか違う気配こそ実に不可思議。またそれが面白い。よく知りもせずに云うのだが、大名行列や屋台の巡行こそ八朔祭りが一偏の祭事とは云いがたい理由であればその流儀に心惹かれるのも仕方ないことか。

谷一小のグランドが主会場で些か小ぶりの舞台ばかりが陽に晒される。その前の通りが高尾町。両側に連なる露店の多さには驚くばかり。二車線の道が殆ど人に埋め尽くされて、さぞや皆暑気に辟易としていることだろうと思えば、子供はめげずに親を右や左に連れ回す。こうなれば祭りはいづこも同じ。籠る熱気が楽しさを振りまいて、舞台には繰り返えされる踊りと響き回る音。否が応でも祭りは盛り上がる。

大名行列は城下町の面目を大いに示すもの。確かに間近に見れば、その息遣い今までが伝わる気合い振り。酷暑の中であれほど衣装を身にまとう覚悟は大したものぞ。光が飛び散る中で一層映える煌びやかな衣装は何とも艶やか。神神しくさえ見える。小姓に扮した少年や娘達。それに奴の淫慾心。逆る汗がこれほど灼熱の午後に映えるとは、これがこの祭りの真骨頂であるなら、なるほどそこに神はおられずどうやら雀躍する心意気だけ。二人引きの鞍上には殿様。傍らには長閑に甚句を謳い上げる唄い手一人。そこには行列の掛け声とは違う伝統の余韻が。それが有り余る強い日差しの中で掠れることはない。こればかりは宵闇に見てはならぬもの。

屋台と呼ぶのも憚れる山車の見事な重々しさ。四基揃って華やかに美しさを競うという謳い文句を知れば尚更なことだろう。神輿に担がれる神もあれば、これは山車に鎮座して曳かれる神というべきなのか。軋む車輪のものやわらかさ。奏でる祭囃子は曳き手の掛け声ほどに遠く伝う。

やがて日暮れて屋台の上でほんのり上気した娘たちの頬を掠める風も涼しき。家族連れもあれば若者たちだけの一群もあり、そこは祭りならではの無礼講。誰が奢める訳でもなく喧騒はいつまで続くことか。すると勇ましく夜空を駆け上がる火球の弾け飛び散る七色に、あ、きれい、とため息漏す娘も。粋な祭り袴纏を着こなした老人が話して呉れた。八朔ってのはね、もともと生出神社の祭りでさ、大名行列や屋台の巡行はその付け祭りなのさ。生出神社じゃ九月一日が八朔祭り。それは今も変っちゃいねえよ。まるで神様はそちらにいらっしゃるかのよう。

なるほどと得心しての帰り道、雲居の下には山小屋の灯かり。置き去られたように二つ三つ。明日もまた晴れるかな。

会報「ぼちぼち」は、インターネットホームページでもご覧いただけます。

URLは、<https://www.mfi.or.jp/~machizukuri/> です。

会報に掲載する記事は、隨時受けております。

普段の生活の中で考えている事や身近な出来事、是非皆で共有しましょう！

広報専用外部会メールアドレスは、mkin1962@yahoo.co.jp まで、お待ちしております!!





世相を斬る！ 自民党の「新総裁」に望むこと

会員 秋山紀勝

2025年9月7日（日）夕方、石破茂首相は突然の記者会見で「党総裁を辞任し、退陣する」と表明した。1年近く続いた石破内閣は退陣することになった。10月初旬に自民党は新しい総裁を選出するが、その新総裁が次の首相になる保証はない。自・公の少数与党はまったく変わらないため国会の首班指名選挙で、野党がまとまって統一候補に投票すれば、その人が新しい首相になり、自民・公明は野党に転落する。しかし、この原稿を書いている9月20日現在の状況では、野党がまとまって統一候補に投票する可能性はかなり少ないと想定する。石破内閣のように少数与党の内閣が発足することを前提に原稿を書き進める。



なぜ、自民党は衆・参院選で負けたかを考えれば、新しい首相に誰がなっても「起死回生策」は同じではないのか。

第1は「裏金問題」である。億単位にのぼる「裏金」は、いつ、だれが、決めたのか、未だに「藪の中」である。これに国民が納得する「明確な答え」を出さない場合には、石破内閣と同じ命運になるだろう。「裏金を貰った議員は全員を除名する」くらいの大手術が必要だ。また、2024年秋の国会で「2025年3月まで結論を出す」としていた企業・団体献金も全面禁止で決着するべきだ。

第2は「物価高対策」である。これだけあらゆる物価が上がっているのに石破政権は根本的な対策を打ち出せなかつた。国民の怒りは「我慢の限界」を遥かに超えている。新内閣の初閣議の議論は这一点に集中しても良いくらいだ。

第3は財政である。2024年末で国の国債、借入などの合計額は1300兆を超えており、参院選では、「2万円の現金給付」「消費税廃止」など国民に耳触りの良い政策が叫ばれたが、財源はどうするのか。今年度の国的一般会計予算が115兆円であることを考えれば、1300兆円がいかに大金か分かる。このまま進むと、いつの日か国債が紙切れになる日が来る。



世論の中には「自民党は古希で分裂するのでは」と言う声もあつたが、何とかの持ち堪えている。誰が新首相になってもなつてその日からいばらの道である。もし、新しい政権が国民の期待に沿えなくて短期間で崩壊すれば、その時は自民党のお通夜になりかねない。

（以上）



スクリーンの外で娘が見つけた「世界」



会員 フォックス咲子



「そりやあやっぱり、地元のスーパーを見てみたいんだよね」一旅に出る前、うちの娘（18歳）が言った。観光名所じゃなくて自分探しでもなく、スーパー。彼女らしい。そして、私の一人娘は世界一周の旅に飛び出していった。

あれから4ヶ月が経ち、娘は世界のあちこちをかけ巡っている。インドでは早速タクシーの詐欺に遭って「印度あるある！」と報告が。タイでは「何これ、全部辛すぎ！」と泣きそうになつたらしい。トルコでは日本食ロスがひどくて、アジア系スーパーで味噌をゲットしたものの、「味噌…何か微妙…」とがっかり。でもそれも旅の醍醐味。

16歳からお酒が飲めるドイツでは、ビール飲み比べ三昧の毎日。トルコで連れて行ってもらった絨毯屋さんでは、値切り交渉で大奮闘。旅先で出会った仲間と過ごす日々は、スマホの画面じや絶対に伝わらない混沌とした街の空気とともに、彼女の宝物になっているようだ。

正直、東欧なんて退屈そう…と思っていたのに、行ってみたら「！めっちゃきれい！」と感動の連続。フランスの電車の遅れやイギリスのフライト遅延も経験して、「これがヨーロッパタイムか…」と腹をくくったそうだ。日本の“至れり尽くせり”生活に甘やかされてた自分に気づいた瞬間だったかも。

アメリカでは自由の国イメージがちょっと崩れて、「みんな警戒心バリバリでこわい…」と違和感を覚えた様子。スマホ越しには見えないリアルな人間模様に触れたらしい。

そして、彼女のメインイベント「地元スーパー巡り」は旅のあちこちで健在。並んだ商品に値札、店員さんの表情まで観察して、その国の日常をひしひしを感じている。

ところで、出発の条件として「毎日ラインで生存報告しなさい」と言ったのに、案の定来ない。便りのないのは良い便りと言い聞かせ、毎日スマホをチェックしては一人でヤキモキ。この旅で一番の試練は、18歳の娘を一人で世界に送り出した私かもしれない。

あと10日で帰国予定の娘。帰ってきたら、外から見た日本をどう語るか楽しみだ。見慣れた景色が「あれ？なんか違う」と感じるかもしれない。遠くて近い世界を歩いた娘が、「人種や言葉は違っても、みんな考えてることは同じなんだなあ」なんて、ちょっと大人になって話してくれたら母はそれだけで満足だ。

(以上)

事務局だより

NPO事務局 渡邊義広

暑くて長い夏 センター業務報告

今年の夏は長く異常な酷暑であった。ここ数年地球レベルの気象変動が続いているが、この夏は異常を通り越して驚異そのものであった。4月・5月度観測史上国内最高気温更新、一ヶ月余りも連続した猛暑日、記録的な少雨と短時間大雨特別警報、線状降水帯の頻発、熱中症警戒アラート常態化、クーリングシェルターの開設放送。人生で初めて体験するような日々の連続で想定外の日常生活に直面する夏であった。

一方、青少年センターの利用実績は利用者、売上ともに過去最大に迫る勢いであった。事務室にある黒板は利用予定で真っ白に埋め尽くされていた。厨房はもちろん館内は場所によっては熱気が溜まり、室内の暑さ指数が警戒危険レベルまで達していた。その中で、スタッフはほぼ毎日業務に追われ、まさに休み返上で気力も体力も限界を超えての超人的な奮闘であった。その過酷な状況でのスタッフの頑張りに感謝以外の言葉は見つからない。

青天の霹靂 事件の顛末報告

▼事件の端緒。7月14日、教育委員会部長以下の職員から青少年センターの指定管理契約を打ち切るという突然の通告があった。まさに、青天の霹靂。以下はその顛末報告である。

市の行財政検討会議での決定事項との通告であった。市の全ての公共施設の老朽化、長寿命化など全面的な見直しをした結果に基づく決定とのこと。指定管理による施設の内、青少年センターは老朽化が激しく、修繕も難しく維持管理には費用の高騰が見込まれる。さらに今年度契約期間が満了するので指定管理廃止となつたと言う。

その後、教育委員会職員と対決する姿勢で真意を探るやり取りを重ねる一方、臨時理事会、スタッフ会議を2回開き、市の決定事項に反対する対策を熱く協議した。

▼事件の顛末。8月中旬まで事態は糾余曲折し、市との喧々諤々の協議を重ねた。8月21日急転直下、市の決定が変更されて、3年間の期限で指定管理の継続となつた。

これまで指定管理者として、利用者サービスの向上、維持管理費の削減、スタッフの雇用など他の施設と比較しても遜色のない運営に当たって来た自信がある。今後もこれまでの実績に更に上積し、NPO法人としての評価を高める覚悟を肝に銘じた事件であった。

みんなの食堂+子ども食堂 昭和医科大学から新たな提案

みんなの食堂+子ども食堂は個人と企業団体など多方面からの支援をいただき、会員のボランティア活動により順調に運営されている。

これまでも昭和医科大学の学生には運営の各部門でお手伝いをいただいて来た。学生と子どもたちとのふれあいを見ていると心温まる場面が多々あった。今年も、学生による全面的なプロデュースで企画運営をお願いするため大学を訪れて打合せを行つた。

そこで、大学側から、毎年11月に開催している大学寮祭とリンクして開催したいとの提案を受けた。地域に開かれた大学運営を目指しているので、みんなの食堂の参加者を大学キャンパスに招待するというプランである。巨大なキャンプファイヤー、打ち上げ花火、とりどりの模擬店など学生以外は見ることができない大学イベントである。今後、具体的な実施に向けて協議することが決まった。

「博士ちゃん」誕生！

昭和医科大学萩原教授と学生たちによる「アリの観察会」が7月12日青少年センターで開催された。当日は6組ほどの家族連れが参加して、楽しい自然観察会となった。

アリの種類は？日本で一番大きいアリは？働きアリの性別は？白アリはアリ？などのクイズを楽しく解きながらアリの生態をわかりやすく勉強した。顕微鏡で細部を観察し、アリの標本づくりも体験した。この後、センターの庭に出てアリ観察会となった。

萩原先生の得意なフィールドワークで、アリはセンターの意外な場所で生息しており種類も多く、あちらこちらでアリ発見の喜びの声が上がった。子どもたちは昆虫が大好きって感じで笑顔がいっぱい溢れ、未来の

「アリ博士ちゃん」誕生を期待させるアリ観察会となった。

(以上)



FUREAI
LETTER

あつたかな

街を

つくる

仲間たち



市民ふれあいセンターだより

ふれあいセンター長 佐藤 雄三
TEL 0555-22-1785



私たち山梨アウトリーチというサークルです。

日本で暮らす多国籍の仲間たちが信仰と音楽で結び合っています。

無論日本人もいます。

現在会員は35名です。家族ぐるみのお付き合いです。富士宮、
沼津から駆けつける仲間もいます。

私たち音楽を大切にします。音楽こそが私たちの心です。

これからもよろしくお願いします。

代表 ガリー・オス・エルン

編集後記

富士山の麓では、朝晩にかすかに秋の気配が漂い始め、稲穂の色づきとともに季節の移ろいを感じる頃となりました。今年の暑さはなお厳しく、猛暑と水不足の影響が地域の農業にも深刻な影を落としています。

今号「ぼちぼち88号」では、国内外の急速な変化を見つめながら、私たち自身の暮らしや地域のあり方を問い合わせ直す契機となるような記事を集めました。

国内では、参議院選挙において与党が大敗し、ついに自民党総裁選が前倒しで実施されることとなりました。政権の行方が現実的な転換点を迎える中、私たちの暮らしに直結する政策の方向性もまた、大きな岐路に立たされています。

一方、国際社会では、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルのガザ地区への攻撃が収束の兆しを見せず、分断と緊張が続いている。昨日の国連総会では、トランプ大統領がイスラエルを擁護する演説を行い、世界の分断をさらに加速させる内容となりました。日本を含む多くの国々に経済的な波紋が広がることは避けられず、国際秩序の不確実性が一層深まっています。

こうした大きな動きの中で、私たちの足元にある「食」もまた、静かに揺れています。昨年から続く米価の高騰に加え、今年の猛暑と水不足による作柄への不安が広がり、JAの概算金は大幅に引き上げられました。店頭価格が例年の1.5~2倍に達する銘柄もあり、私たちの食卓にも影響が及び始めています。

このような状況は、地域の食のあり方や農業の持続可能性について、改めて考えるきっかけとなるのではないでしょうか。

今号では、こうした問い合わせに対して、地域に根ざした視点から皆さまの声を集めました。一人ひとりの暮らしの実感や経験が、時代のうねりの中で私たちが進むべき方向を照らす灯となることを願っています。

次号もまた、富士山の麓から「ぼちぼち」と歩みを進めてまいります。 (M)